

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「We make people happy」(私たちは人々の幸せのお手伝いをします)を運営理念とし及び(ニコニコ、ハキハキ、キビキビ)を行動理念として、事業所独自の理念を作り上げている。	○ 運営理念が、仕事に行き詰った時や悩みが生じたときの指針となるよう職員に浸透させていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	仕事を通して、入居者様、利用者様の自立のお手伝いをさせていただき、安心と満足を提供させていただくことにより私たち職員も笑顔・生きがいをいただけるよう理念の実践に取り組んでいる。	○
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	2ヶ月に1回の運営推進会議の場や地域との集まりの場、事業者間連絡会においても、運営理念をわかり良く話し、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	○
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の方のご好意により柿畑を解放し、収穫させていただいたり、合わせ柿などを持ってきてくださったりしている。散歩中気軽に話しかけられる関係を作っている。	○ 防災協定を締結したが、今後はより具体的な話し合いをし災害時にも団結し協力体制が取れるよう取り組んでいきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	民生委員の会合や大庭地区福祉医療介護サービス事業者連絡会を立ち上げ地元の方とは防災などにおいても協力する体制を作っている。	○

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	併設のデイサービスにおいては家族会を毎月開催し認知症の理解や接し方について相談援助をしている。	○	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価を受けることは別に、常に職員の自己評価アンケートなどを実施し、改善に取り組んでいる。外部研修の受入もしている。	○	外部評価を実施するときに限らず、普段から自分たちの仕事に対して、検証していけるようなし組を作っていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議においては、職員が方向性(テーマ)を出し、入居者も全員会議に参加し意見を言えるような運営推進会議を目指している。現在は2ヶ月に一回の運営推進会議が「お客様をもてなす」という入居者の思いも加わってきている。	○	運営推進会議を有意義に活用していきたい。そこから職引力の強化が図れたり、利用者の役割りができたり、地域との連携力の強化が図れたりできるよう、アイデアを出していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホーム事業者連絡会などに出席したり、市町村との担当者とも気軽に相談したりできる関係作りをし、サービスの質の向上に取り組んでいる。	○	
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は研修に出かけたり、本を購入し成年後見制度や権利擁護について学習をしているが、ホームに該当する人がいないせいか職員の知識が低いように思う。勉強会なども実施する必要がある。	○	今後権利擁護の制度等を職員と一緒に勉強し理解を深めていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は常に高齢者虐待防止関連法について学び、職員に対し勉強会も実施している。他県の情報もインターネットなどから取り込み職員に情報を出している。研修会にも参加し伝達研修をし、内容を共有している。	○	虐待については事例をもとに勉強し、職員の虐待に対する意識を深め予防の徹底を図りたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居までのところでも事業所の方針等を話し、入居にあたっての不安が生じないようにしている。契約を結んだり解約時には重要事項説明書などを使い十分な説明を行い、理解していただくよう図っている。	○	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や態度からも不満や意見などを見逃さないようにしている。家族からも本人の意見・苦情・不満などを聞く機会を設けている。	○	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族便りなどを通し、暮らしぶりを知らせている。職員の異動に関しても報告させていただいている。	○	家族便りの見直しをする方向でいる。同じ内容の便りではなく、一人ひとりに出す便りにしていく方向で話し合っている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は家族と気兼ねなく話せる関係作りをしている。定期的に話す時間を作っている。職員も面会時になるべく話をして気軽に話せる関係を作っている。金銭管理においては収支を毎月報告している。	○	家族の意見、思いが表出しやすい関係を今後も作り運営に反映させたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月会議を開いている。職員の連絡ノートを作り意見や提案も書くようにしている。職員の自信となるよう先輩が後輩を指導するプリセプター制を今年から実施しているがまだ効果の程は把握できていない	○	プリセプター制を確立したい。(指導する立場の職員の研修時間を確保し、新人職員が気持ちよく働けるようにしていきたい)
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	管理者は夜間の対応もできるようにしている。起床時、就寝前など早番、遅番などのローテーションを組んでいる。	○	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者が馴染みの関係の中で安心して支援を受けられるように、配慮したが、去年は離職者が多かった。新しい職員が入ったときは太陽便り等を通じ紹介し、利用者にもきちんと紹介している。新人職員はいろんなことを利用者から教わることも多い。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を立てている。法人内での勉強会も実施している。外部研修は必ず研修報告を出し、伝達研修もするようにしている。	○	運営推進会議においても、ひとりの職員が中心となりテーマから司会までを務めている。交替制でしている。最初から最後まで関わることで自信にもつながっているため今後も仕事を通して育てる取り組みをしていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム事業者連絡会にて、同業者と交流している。現場での悩みや勉強会を通し、サービスの質の向上の取り組みをしている。	○	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	市民レガッタや法人内での交流会を通し、みんなが協力できる環境を作っている。管理者並びに上司(理事長)との面談も設けて職員の思いを聞く時間を作っている	○	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	事業計画を職員と話し合っ作っている。予算書に関しても職員がコスト意識を持つよう報告したり、レセプトも職員が行なって、月の数値管理もしている。	○	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	数回、必ず職員が事前面談をし、安心される関係作りから始めている。その時の本人の状況を判断し、本人の思い・苦しみ・楽しみ等の一つでも多く聴けるようにしている	○	最初の関わりを大事にしている。利用されるされないに関わらず、相談内容に耳を傾けていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用開始に到るまでに、ホームに来ていただき、ホームの雰囲気や様子を見てもらい、又、今までの家族の苦労や状態を時間をかけて聞くようにしている。	○	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたとき、本人の思いや家族の要望からホーム以外の選択肢も提案させていただいている。(デイサービスの利用・ケアハウスの入居・特別養護老人ホーム等の入所)	○	今後も家族様の要望、相談には耳を傾け柔軟な対応を行いたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設している通所介護を利用し、ホームと定期的に交流を持つことで利用に到るまでに馴染みの関係作りができています。又、家族、本人にホームに来ていただき安心して利用できるように努めている。	○	
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	献立を一緒に考えたり。調理の仕方を教わったりしている。洗濯・掃除等も利用者の力に応じて發揮してもらっている。恒例の笹巻きや餅つき等や季節の行事から教えていただく場面を多く設けている。	○	今後は一緒に畑作りに力を入れていきたい。季節の野菜を作りたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族と共に関わっていけるよう、ホームでの暮らしぶりや本人の思いなどを面会にこられた時などに伝えている。又外出など家族・本人・職員が一緒に出かけるなどし喜怒哀楽を共に持つ時間を確保している。又毎日のお茶の時間にご主人が来られ夫婦の時間を持ってもらえる方もいる。	○	家族と共の外出。ごく一部の家族だけの参加で残念。今後も家族を誘っていきたい。楽しい思い出作りをしていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の状況を見極めて、家族への連絡・報告・相談を行なっている。本人の思いや家族の思いを考慮しながら、携帯電話を活用したり外出、外泊など勧め、本人が家族との距離感を感じないよう配慮している。	○	家族へ、日々の様子を書いた手紙を書き、送りたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が入居される以前に利用されていたデイサービスの仲間に会えるよう、毎月何らかの行事に参加し交流をしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係性について職員は情報を共有し、対人関係でストレスが生じないよう調整をしている。感情は日々変化するので、その時の状況を把握し見守っている。	○	毎日のお茶や食事の時間、職員も一緒に多くの会話をもつようにしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	運営推進会議に退居された家族に参加していただいている。毎月お茶を点てにきてくださるなど、関係を大事にしている。	○	今後も関係を絶たないよう継続的な付き合いができるようにしていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	朝食の時間を決めずに、その人なりの生活習慣に合わせた対応をしている。入浴の拒否などがあるときは、日々のかかわりの中から本人の状況を把握し「入りたい」と言われるよう声掛けすることに努めている。	○	意思疎通が困難な方には家族からの情報や思いを知り、希望をかなえてあげたい。一人ひとりの思いがかなえられるよう支援していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今まで使っておられた箸や茶碗、湯のみ、本等を持ってきてもらうようにしている。日々のホームでの暮らしの中から、その日の感情などを考慮しながら本人の言葉で生活歴や暮らし方等菊時間もある。家族からも面接時に情報をもらっている。	○	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日健康チェック(血圧・脈拍・体温)や食事量・水分量・主治医との連絡ノート等から健康状態を把握し、日中の過ごし方。夜間の状態から一人ひとりの現状を総合的に判断できるよう努めている。	○	精神状態の不安定な方への取り組み、攻撃的になられる方への理解をきちんとしていきたい。どのような状態で行動につながるかをきちんと理解していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族から要望を聞き、介護計画を作成している。又職員からもカンファレンス等で意見を聞き、本人の思いが反映され、この場所でより良く暮らせるよう介護計画を作成している。	○	生活歴や馴染みの暮らしぶりが活かせるような介護計画を作成し、介護作成担当者だけが把握しているプランではなく職員も周知した生きた介護計画を実践できるようにしていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回、介護計画を作成している。本人の身体状況が入院等で変化したときも、関係者と話し合い、介護計画を変更し、家族の方にも説明し同意をもらっている。	○	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のカルテを作成。又記録は「D＝データー、A＝アクション、R＝結果」方式を使用。D「入居者の言動や行動」A「職員がどう対応したか」R「入居者の反応や行動」を記入するようにしている。	○	記録の仕方などを勉強し、個別の記録を見たら状況が十分に分かる記録となるようにしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携加算あり。入居者が重度化した場合や、終末期の看取りまで対応出来る支援をしている。	○	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	警察官(古志原交番)の方も運営推進会議のメンバー。防災協定では民生委員、公民館長、ボランティアの関わりから必要性に応じ協力支援している。	○	認知症の方がこの地域でより良い生活が送れるよう、今後も社会資源を活用していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	同法人内における認知症デイサービス事業所や一般型デイサービスとは行事等の参加やコーラスサークルの参加などしている。	○	
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの方は運営推進会議に参加してもらっている。認知症の人を地域で支えるネットワークづくりまでには到っていない。	○	
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みのかかりつけ医が往診に来ていただいている方が6名、家族の方と共に総合病院に受診される方が3名。共に「受診ノート」「医師との連絡ノートを通じ主治医とやりとりしている。	、○	連絡ノート等を通じ、適切な医療が受けれるよう良い関係を作っていきたい。

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	退院時、夜間せん妄のひどい方がおられたが、専門の精神科受診していただき、以後病院の受診には必ず職員が付き添うようにし、先生との連絡を密にし連携を図った。困ったことがあれば電話でも対応していただき、現在は入院することなく内服薬の調整により落ち着いた生活を送っておられる。	○	今後も認知症の専門医の支援を受けながら適切な支援が出来る様にしていきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を一人配置。日ごろの健康管理や、医療面で助言や、対応をしてもらっている。夜間も電話で相談、指示をもらっている。	○	
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時の話し合いでは看取りの方針や緊急時の対応について、管理者が話し合いをしている。必要な書類にも同意を頂いている。	○	入院時には、混乱が生じないよう、ホームでの生活状況情報を病院に伝え、不安のない入院となるよう支援していきたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	早い段階からも看取り指針に基づき話し合いの場を持ち、家族の意向や思いを聞いているが、本人からの意向が深いところでは聞けていないように思う。	○	「終の棲家」となるよう今後支援していきたい。そのための勉強会も実施し実践していきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在進行中。かかりつけ医には毎日「その日の状態」を報告しているかかりつけ医も協力的で、本人の苦痛を少しでも取り除き安心した気持ちで過ごせるよう、家族、主治医、職員一丸となって取り組んでいる。	○	
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移り住む事になった場合(特別養護老人ホーム・ケアハウス入居)本人の状況、好み、これまでのケアの工夫など個別情報を提出させてもらったり、話し合いに参加させてもらったりし住み替えによるダメージを防ぐことに努めている。	○	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	食事の後口の周りが汚れていたら、そっと拭いて差し上げられるようさりげない支援ができるようにしている。排泄時の声掛けにも目立たないようさりげない声掛けをしている。	○ 目立たず、さりげない声掛け。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	行きたい場所や、食べたいもの等聞く様になっている。献立なども入居者と話し合っている。洗濯物を干したりたたんだりすることも、本人が納得され動かされるのを待つ支援をしている。	○
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人が可能な限り、自分のペースで生活されるよう見守り支援している。家族が面会に来られたら時間を気にせずゆっくり過ごしてもらうよう配慮している。	○ 希望をもっと言い合える関係を築いていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	月1回ハッピー号にて散髪(美容院)できる時間を確保し、本人の意向にて髪を整髪(カラーリング含め)ができるようにしている。又家族の方で美容師の方がおられるので、定期的に散髪をされている。化粧をしておられる方もおられます。	○ 理美容については、いけるとき地域の美容院にいけるよう支援したい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	料理する際には、一人ひとりの力に合わせ、切ることができる方、盛り付けをお願いする方、味付けをしてもらったり、味加減を聞いたり何らかの形で一緒に準備している。片付けの茶碗拭きは定番となっている。	○ 利用者と畑作りをし、共に収穫し、調理をすることがしたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	職員は一人ひとりの嗜好品を把握している。自宅におられた時に毎日食べておられた梅干をつけている。	○

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	以前紙オムツだった方の排泄失敗軽減に向けて取り組んだ結果、布パンツに変更となった。	○	排泄のパターンが状態の変化に伴い変わってきているので、今が一番と思わないで、見直しながら排泄援助をしていきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入りたいと言われるときは、可能な限り対応しているが、入浴時間帯は限られている。	○	入浴拒否の方への支援。自分から入りたいと望まれるにはどう支援したらよいのか取り組んでいきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	室温等も一定に保ち、安眠できるよう支援している。眠れない方には添い寝等もしたり、コタツで休んでいただくこともしている。	○	日中の活動性を高め、生活リズムを整え、薬を減らす又は無くす方向にもって行きたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑を耕したり、草取りを一緒にしている。将棋・パズル等本人の趣味を活かした楽しみもできるよう支援している。	○	本人が積極的に関わられるような声掛けや支援が出せるようにしていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームで行なった夏祭りなども金額を設定し、お金を管理できる力を発揮できる場面を作っている。外出や買物など自ら支払いができるよう支援している。	○	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩等ができる日は、一緒に外に出かけられるようにしている。	○	その人の行きたいところ、希望する場所の外出の支援をしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	一ヶ月に一回は食事をしたり、花見や季節を感じていただける場所に外出する支援をしている。	○	家に帰りたいとの思いを、家族と調整し、できうる範囲で何とかかなえてあげたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分の意思でかけられるよう、家族と相談の上、携帯電話を持参していただき、自らの意思でかけられるようにしている。毎年年賀状を書いておられる方もいる。手紙を書かれたら出されるよう支援している。	○	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問の時間制限は設けていない。いつでも気軽に来ていただいて、来られた際は気持ちいい挨拶を心がけ、一緒にお茶も飲めるようにしている。	○	
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。危険回避の為の拘束(夜間のベットの柵)については、家族と拘束回避のための話し合いを繰り返し持ち、同意を得ている。又期限を決めカンファレンスを行なっている。	○	家族と何回も話し合い、徐々に拘束しないケアを理解してもらうように努める。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中いつでも戸外に出れるよう、鍵はかけていない。その人の行動を理解し、行動を制限するような声掛けをしないよう気をつけている。	○	安全面に配慮しながら、行動の制限をしない方向で今後も実践していく。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員の視界の範囲を理解し、他の職員と連携を図り、入居者様の様子等確認できるよう位置関係を意識して、安全に配慮している。	○	夜間は2時間おきに巡回している。その時の状況に応じて巡回の回数を増やしていく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	誤食をされる方の前にテッシュを置かないよう配慮している。管理しなければいけないもの(包丁・洗剤・はさみ等)については数を毎日確認している。	○	包丁、洗剤、ハサミの個数は確実に毎日行なっていく。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故対策委員会を立ち上げている。ヒヤリ・ハットから事故については小さなものまで検証を行い、事故を防ぐ取り組みをしている。	○	今後も一人ひとりの状態から予測される行動を分析し、事故を未然に防ぐ取り組みをしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員全員が普通救命講習Ⅰを受けた。救命技能を有することができた。AED設置(法人にて管理)	○	継続研修もしていく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署を通し防災訓練を実施し、入居者全員参加していただいている。大庭地区福祉医療サービス事業所及び地域との防災協定を締結し、定期的に連絡会を実施している。	○	今後も入居者参加で訓練を実施していく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族の要望である安全からの抑制に関しても、期限を決め、定期的にカンファレンス等を開き、見直しをし抑圧のない生活ができるよう配慮している。外に出ようとされる入居者の家族には予測されるリスクも話しながら、行動制限することのない生活が大事であることを理解していただく話し合いを定期的に持っている。	○	予測される危険は家族と常に説明していく。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルサイン測定や日々の変化を見逃さないようにしている。情報共有をしている。変化があったときは速やかに主治医に相談し指示を仰いでいる。	○	些細な気づき、変化を見逃さないようにしていく。発見や対応が迅速に行なわれるようにしていく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用の一覧表を掲示している。薬が変わったときは申し送りノートにて情報を共有している。	○	全職員が副作用など把握できるよう勉強会をしていく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・牛乳や乳製品等を活用している。重度の便秘の方には内服薬等も処方して頂き排便チェックリストにてコントロールしている。又散歩等身体を動かす働きかけもしている。	○	自然排便を目指したい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎日食事の後口腔ケアを実施している。吸引器を使った歯ブラシなど考案したり、クリーンブラシ等個々に応じた対応をしている。	○	個別で支援していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量を把握している。食事量が少ないときなどは食事形態を変えてみたり(おにぎり、刻み、お粥等)自分の好きなものを食べていただいている。水分が少ないときは、チェック表を作成し対応している。	○	栄養士(法人)に献立を評価してもらおう。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザは予防接種している。感染症についてはマニュアルを作成している。ノロウイルスに関しても、次亜塩素酸にて共有する場所は拭いて消毒をしている。	○	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	賞味期限の確認を行なっている。毎日夜勤帯でまな板・台所等キッチンハイターにて消毒を行なっている。食器乾燥機にて高温にて保管している。	○	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	看板を設置している。季節の花を植えている。	○	訪れた人が明るい気持ちになるような玄関にしたい。花壇を綺麗にする。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花などを置いて楽しんで頂いている。毎月季節に合ったカレンダーを皆さんと一緒に作成し、飾っている。	、○	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置いたり、畳スペースでくつろいでいただいている。冬季はコタツも出している。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の家具やベットなど以前使っておられたものや写真やカーテンなどで居心地のよい部屋づくりがされている。	○	
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝居室の窓を開けて、空気を入れ替えている。本人にも確認しながら、状況に応じた温度調整をこまめに行っている。冬場には加湿器を使用している。	○	食堂などに自然の風が入るように換気に努める。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりが各部署についている。	○	みんながもっと一緒に楽しめる共有空間がほしい。模様替えも考えたいのだが・・・
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の入り口に名札をつけたりしている。トイレが分かるよう壁に分かるように銘記している。居室の入り口に自分だけの暖簾をかけている。	○	
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外にも安全に出られるよう、玄関からのアプローチにも手すりが設置されている。洗濯物干しが安全に行なえるような場所がある。	○	畑に野菜、花などを植えていく。散歩が楽しめたり、外でお茶が飲めたり、軽い運動などが外でできるよう、外回りを整備していきたい

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

職員8名の思いを記入します。重複するものは割愛させていただきました。・職員のチームワークの良さ、年代も60、40、30、20歳台と均等にいたので、それぞれ職員の個性が発揮でき役割を持ち仕事ができている。お互い意見を言い合い、思いを一つにし利用者に向き合って支援している。・男性職員も調理ができる。入居者全員参加型の運営推進会議を開催している。1ヶ月に1回交流の場を持っている。・毎月1回の外出は、普段見られない笑顔、会話が見られ気分転換の支援となっている。・一生涯をここで過ごしてもらえよう看取り介護にも力を入れています。風邪をひかれないよう口腔ケア、バイタルチェックなど体調管理に力を入れています。・日中は玄関にロックをしていません、散歩される時は職員も付き添いで行きます。運営推進会議では入居者がおやつを作られ和やかな雰囲気で行なっています。・毎日の役割りが持つて頂けるよう支援しています。レクリエーション外出は笑顔が沢山見られて、家族さんとの交流にも力を入れています。・経験の少ないスタッフの介護技術の向上を図るため4月より一年間プリセプター制が導入された。・運営推進会議に入居者全員参加し交流の場を作っている。入居者それぞれ個別対応に力を入れている。その方の必要な支援を心がけている。以上が、今回外部評価にあたり職員が改めてグループホームを見つめ書いてくれました。